

令和元年度病虫害発生予察予報 9 号（12月）

令和元年12月 6 日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作 物 名	病 害 虫 名	予想発生量※
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> 、 <u>やや多(中西、西)</u> <u>多(中央)</u> 、平年並(西)、少(中西) <u>多(中西)</u> 、平年並(中央)、少(西) <u>やや多(中央、中西)</u> 、少(西) <u>やや多(中西)</u> 、やや少(西)、少(中央)
促成ナス	うどんこ病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ ハスモンヨトウ タバココナジラミ	平年並(東)、少(中央、西) <u>多(中央)</u> 、平年並(西)、少(東) 少(県下全域) <u>やや多(東)</u> 、少(中央、西) <u>やや多(西)</u> 、やや少(東、中央)
促成ピーマン ・シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ ハスモンヨトウ タバココナジラミ	平年並(県下全域) <u>多(中西)</u> 、やや少(中央)、少(東) やや少(中西)、少(東、中央) <u>やや多(中西)</u> 、やや少(中央)、少(東) 平年並(東)、少(中央、中西) やや少(県下全域)
促成トマト	葉かび病 すすかび病 うどんこ病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> 平年並(中央) 少(中央) 少(中央) 少(中央)

※ （ ）内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
県 東 部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
吾川郡いの町および高岡郡日高村
県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く) 町村および吾川郡仁淀川町
県 西 部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村
なお、野菜は「土佐市」を中央部に入れています。

I 気象予報（高松地方気象台11月28日発表）

＜予想される向こう1か月の天候＞11月30日から12月29日

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1ヶ月の平均気温は、高い確率60％です。降水量は、平年並または多い確率ともに40％です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40％です。

週別の気温は、1週目は平年並の確率50％です。2週目は高い確率60％です。3～4週目は高い確率50％です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い (多い)	
1 ヶ月	四国地方	気温	10	30	60		
		降水量	20	40		40	
		日照時間	40			40	

＜気温経過の各階級の確率（％）＞

期間	対象地域	低い		平年並	高い
1週目	四国地方	30	50		20
2週目		10	30	60	
3～4週目		20	30	50	

＜予報の対象期間＞

1ヶ月：11月30日（土）～12月29日（日）

1週目：11月30日（土）～12月6日（金）

2週目：12月7日（土）～12月13日（金）

3～4週目：12月14日（土）～12月27日（金）

II 病虫害発生予想

1 促成キュウリの病虫害

1) ベと病

予 想 発生量：多（中央部）、やや多（中西部、西部）

根 拠

(1)11月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は中央部で平年よりもやや多く、その他の地域は平年並であった。発病程度は中央部で平年よりも高く、その他の地域では平年よりもやや低～低かった。

(2)本病は20℃前後、多湿条件下で発病が多くなる。12月は日照時間が平年並～少なく、降水量は平年並～多いと予想されていることから、発生は増加し、既発ほ場では病勢が進展すると考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

予 想 発生量：多（中央部）、平年並（西部）、少（中西部）

根 拠

- (1) 11月の調査では、県中央部と西部で発生が見られ、中央部では発生面積が平年よりも多く、発病程度も高かった。西部では発生面積、発病程度とも平年並であった。
- (2) 気温の低下にともない病勢の進展は緩慢となることから、発生の増加は少なく、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

3) 黄化えそ病

予 想 発生量：多（中西部）、平年並（中央部）、少（西部）

根 拠

- (1) 11月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中西部で平年よりも多く、その他の地域は平年並以下であった。発生程度はいずれの地域も平年並以下で、新たな発生は少なかった。
- (2) 気温の低下にともない本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの増殖が緩慢になることや、野外から施設内への飛び込みもなくなるので、新たな発生は少ないと考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を徹底する。また、罹病株は早期に除去し、埋設するなどの処分を行う。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや多（中央部、中西部）、少（西部）

根 拠

- (1) 11月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部、中西部では平年よりも多く、発生程度も高かったが、西部での発生は少なかった。
- (2) 気温の低下にともない増殖が緩慢になることや、野外から施設内への飛び込みもなくなるので、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多（中西部）、やや少（西部）、少（中央部）

根 拠

- (1) 11月の調査では、県下全域で発生が見られ、県中西部では発生面積が平年よりも多く、発生程度も高かったが、その他の地域は、発生面積、発生程度ともに平年並以下であった。
- (2) 気温の低下にともない増殖が緩慢になることや、野外から施設内への飛び込みも

なくなるので、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

2 促成ナスの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量： 平年並（東部）、少（中央部、西部）

根 拠

- (1) 11月の調査では、県下全域で発生が見られたが、発生面積は県下全域で平年並以下であった。発病程度は西部で平年よりも高く、他の地域は平年並であった。
- (2) 気温の低下にともない病勢の進展が緩慢となることから、発生の増減は少なく、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

予 想 発生量： 多（中央部）、平年並（西部）、少（東部）

根 拠

- (1) 11月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年よりも多く、西部、東部では平年並以下であった。発病程度は中央部で平年よりも高く、西部でやや高く、東部では低かった。
- (2) 気温の低下にともない病勢の進展が緩慢となることから、発生の増加は少なく、現在の発生傾向が続くと考えられる。ただし、12月は日照時間が平年並～少なく、降水量は平年並～多いと予想されているため、既発ほ場では発病の増加に注意する。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量： 少（県下全域）

根 拠

- (1) 11月の調査では、県下全域で発生が見られたが、発生面積はいずれの地域とも平年に比べやや少～少なく、発生程度は平年よりも低かった。
- (2) 気温の低下にともない増殖が緩慢になることや、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着していることから、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

4) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：やや多（東部）、少（中央部、西部）

根 拠

- (1)巡回調査では、県東部と中央部で発生が見られ、東部では、発生面積が平年よりも多く、発生程度も高かったが、中央部での発生は少なかった。
- (2)気温の低下とともに増殖が緩慢となり、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1)ジアミド剤（フェニックス顆粒水和剤、プレバソンフロアブル5など）の効果が低下した個体群がいる可能性があるので、防除薬剤の選定に注意する。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多（西部）、やや少（東部、中央部）

根 拠

- (1)11月の調査では、県下全域で発生が見られ、県西部では発生面積は平年よりも多く、発生程度も平年より高かったが、その他の地域は、発生面積、発生程度ともに平年並であった。
- (2)気温の低下にともない増殖が緩慢になることや、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着していることから、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1)本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：平年並（県下全域）

根 拠

- (1)11月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積はいずれの地域も平年並、発病程度は中央部、中西部で平年よりも高く、東部では平年並であった。
- (2)気温の低下にともない病勢の進展が緩慢となることから、発生の増加は少なく、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 斑点病

予 想 発生量：多（中西部）、やや少（中央部）、少（東部）

根 拠

- (1)11月の調査では、県中央部、中西部で発生が見られた。発生面積は中西部では平年に比べ多く、中央部ではやや少なかったが、発病程度は中央部で平年よりも高く、中西部では低かった。
- (2)低温期は病勢進展が緩慢となるため、発生の増加は少なく現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) 黒枯病

予 想 発生量：やや少（中西部）、少（東部、中央部）

根 拠

- (1)11月の調査では、県中西部で発生が見られ、発生面積は平年よりもやや少なかったが、発病程度は平年よりも高かった。
- (2)気温の低下とともに病勢進展が緩慢となるため、発生の増加は少なく現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや多（中西部）、やや少（中央部）、少（東部）

根 拠

- (1)11月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は中西部で平年よりも多かったが、その他の地域は平年並以下であった。発生程度は中央部で平年よりも高く、その他の地域では低かった。
- (2)気温の低下にともない増殖が緩慢になることや、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着していることから、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

5) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：平年並（東部）、少（中央部、中西部）

根 拠

- (1)巡回調査では、県東部で発生が見られ、発生面積は平年よりもやや多く、発生程度もやや高かった。
- (2)気温の低下とともに増殖が緩慢となり、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1)ジアミド剤（フェニックス顆粒水和剤、プレバソンフロアブル5など）の効果が低下した個体群がいる可能性があるので、防除薬剤の選定に注意する。

6) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや少（県下全域）

根 拠

- (1)11月の調査では、県下全域で見られたが、いずれの地域も発生面積、発生程度ともに平年並以下であった。
- (2)気温の低下にともない増殖が緩慢になることや、ほとんどのほ場でタバコカスミ

カメ等の天敵が定着していることから、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

4 促成トマトの病害虫

1) 葉かび病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 11月の調査では、発生面積は平年に比べ多く、発病程度も高かった。
- (2) 12月の降水量は平年並～多め、日照時間は少ない確率が高いと予想されているため、既発ほ場を中心に発生が増加するものと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

2) すすかび病

予 想 発生量：平年並(中央部)

根 拠

- (1) 11月の調査では、発生面積は平年並であったが、発病程度は高かった。
- (2) 低温期は病勢進展が緩慢となるため、発生の増加は少なく現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) うどんこ病

予 想 発生量：少(中央部)

根 拠

- (1) 11月の調査では、発生は見られなかった。
- (2) 気温の低下にともない病勢の進展が緩慢となることから、発生の増加は少なく、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) 黄化葉巻病

予 想 発生量：少(中央部)

根 拠

(1) 11月の調査では、発生は見られなかった。

(2) 本病の媒介虫であるタバココナジラミは、気温の低下にともない野外から施設内への侵入はなくなることから、新たな発生は少ないものと考えられる。

対 策

(1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋設するなどして処分する。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：少(中央部)

根 拠

(1) 11月の調査では、発生面積は平年並であったが、発生程度は低かった。

(2) 気温の低下とともに増殖が緩慢となるため、発生は減少すると考えられる。

対 策

(1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。また、本虫は黄化葉巻病を媒介するので注意する。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ (こうち農業ネット)

① 病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報

② 病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報

③ 病虫害発生予察技術資料

④ 新しく問題となっている病虫害 etc.